花瀬の石畳（はなせのいしだたみ）

【所　　在　　地】 鹿児島県肝属郡錦江町田代川原地内　雄川（上流限：右岸同町田代麓字刈切5217番と田代麓字川床5195番１の境界の西端，左岸同田代川原字楠ハエ4221番の右岸の境界の向かい側，下流限：右岸同町田代川原字川前4106番と田代川原字川前4104番７の境界の西端，左岸同田代川原字川床平6495番の右岸境界の向かい側，上流限と下流限に囲まれた地域鹿児島市城山町１番１号

【種　　別】県指定天然記念物

【指 定 年 月 日】平成２７年４月１７日

花瀬の石畳の河床

大隅半島南部の雄川で河床が石畳のようになっている景勝地である。古くから多くの観光客で賑わい，その景観は「三國名勝圖會（ずえ）」にも記されている。石畳は，約11万年前の巨大噴火の痕跡をよく残している阿多火砕流の溶結凝灰岩で，幅100メートル，距離２キロメートルにわたっている。このような景観は，鹿児島県内ではほかに例がない。地質学的に特異な地形地質は，カルデラを形成するような大噴火の様相を知る上で学術的に貴重である。また石畳上では，県指定天然記念物「カワゴケソウ科」が生育しており，美しい自然や景観が保たれている。